

安全のしおり



令和6年8月1日
通算第345号
安全・適正就業委員会

【安全は無理せず焦らず 油断せず】・【高齢者 自信過剰は事故のもと】

■ 夏は虫刺されに要注意

夏の屋外作業で注意が必要なのが虫刺されです。虫の種類によって虫刺されの症状も様々ですが、基本的な予防策や対処法を知っておき、日頃から対策をしておきましょう。

▲蜂

スズメ蜂 7～10月 アシナガ蜂 7～8月
黒い色(髪の毛や目にも)に対して最も攻撃的。
化粧品や汗などの匂いにも敏感。



▲毛虫

身近な所では、サザンカや椿の木につくチャドクガの幼虫(毛虫)に刺されやすいので注意が必要。毒のある毛や毒蛾のりん粉に触ると、強いかゆみを感じるようになり、赤く腫れる。毛虫や毒蛾を見かけなくても、毛やりん粉の衣類への付着に注意。

▲ダニ

春から夏にかけて活動が活発。草むらや藪などではマダニが多く生息。吸血を介して感染症を媒介することもある。

▲トコジラミ

春から夏にかけて活動が活発。日本国内でも被害が増加。暗い場所を好み、部屋の壁や柱の割れ目、家具の隙間、木製ベッドの裏などに潜伏。夜間になると徘徊し、就寝中に刺される事が多く、強いかゆみを生じる。

■ 予防の基本は肌を露出しないこと

- ⇒ 肌の露出部分が刺されやすいので、できるだけ長袖・長ズボンを着用する。
- ⇒ 帽子や手袋も虫除けには効果的。さらに、顔の前に垂らす網がついているタイプのものなら顔の虫除けもできる。
- ⇒ 外に出る前に虫除けスプレー等を肌の露出部分にかけておく。顔に使用する場合は、一度手のひらにかけてから顔に塗るようにする。

■ もし刺されたら？ 症状が悪化した場合は早めに病院を受診

蜂	針はガムテープなどに付着させて抜く。口で毒を吸わない。 毒は水に弱いので、石けんでよく洗い、流水でよく洗って冷やす。 スズメバチなど大きなハチに刺されたときにはすぐに医療機関へ。
毛虫	触れてしまい、発疹が出たら、流水で丁寧に流す。 患部に毛が残っている場合には、テープで取り除く。 腫れがひかない場合は患部を冷やして皮膚科へ。
ダニ	マダニは皮膚に咬みつきなごらセメント物質を出して固着する。無理に引き離そうとすると固着した口の部分が体内に残ってしまうことがあり危険。 医療機関で除去してもらう。数週間程度は体調の変化に注意。
トコジラミ	抗ヒスタミンの外用薬を塗布してかゆみを抑え、かきむしらないようにする。 かゆみがひどい場合は皮膚科を受診

毎年、刈払機による事故(石飛散)が発生しています。
これからの時期、刈払機の事故に注意しましょう！